

EVENT REPORT



「マナビDX Quest つながる・ひろがるMeetup ～実践的な学びと成果の発信 & 交流～」を開催いたしました！

- 本イベントでは対面・オンラインのハイブリッド形式で、「実践的な学びの成果と共有 & 交流」をテーマに、有識者や修了生、受講生との課題解決に参画いただいた協働企業が登壇し、成果を発信いただきました。
- 対面では約50名、オンラインでは約140名、修了生やその所属企業、協働企業など全国から様々な方にご参加をいただきました。
- 参加者からは、「学びの姿勢や知見の活かし方について、今後のあり方を考えるキッカケとなった」「企業協働の現場でどのような実践が行われたのかが非常に参考になった」といった声が聞かれました。



日時 ● 2026年2月16日 (月) 18:30~20:30
 場所 ● 経済産業省 共創空間『ベツナナ』(別館7階)
 形式 ● 対面 + オンラインのハイブリッド形式
 アジェンダ ●

開催概要

- ▶ 開会のご挨拶
- ▶ 基調講演 「実践的な学びの重要性」
- ▶ 修了生によるパネルディスカッション 「プログラムでの経験とその後のキャリア」
- ▶ 協働企業・修了生による成果共有 「プログラムでの取り組みとその後の成果」
- ▶ 閉会式 (記念写真撮影)
- ▶ ネットワーキング

基調講演



株式会社SIGNATE 代表取締役社長

齊藤 秀 様

- オプトCAOを経て現職。幅広い産業領域のAI/データ活用業務を経験
- データサイエンティスト育成及び政府データ活用関連の委員に多数就任
- 筑波大学人工知能センター客員教授、国立がん研究センター研究所客員研究員



- 株式会社SIGNATE 代表取締役社長 齊藤様から、生成AIの急速な進化により知識や作業はAIが担う時代が到来しようとしており、価値を生むのは「使う人」の力だとお話がありました。
- AIの台頭に伴い、実践経験の場が限定的になってきているという中で、課題解決型学習 (PBL) や組織での課題解決現場のように、実務的な環境で試行錯誤し、AIを武器として使いこなして成果を出す経験が、これからの人材育成・成長の鍵になると共有されました。

修了生によるパネルディスカッション

- 竹下様からは、マナビDX Questの価値として、地方では学びの機会が限られる中でも、仲間と「濁流」に飛び込み、ともに乗り越える経験ができることが語られました。また、学びを実務に活かし、患者説明資料をAIで複数案作成して最適化を行い、患者満足度や経営面の改善につなげたご経験も紹介されました。
- 水谷様は、現場に入り込み、業務フローを起点に課題を特定して打ち手へつなげる「型」が身についたこと、さらに、学び合い・発信の文化に触れたことで、社内でも従業員同士の学び合いを意識したコミュニティを立ち上げ、仲間を増やしながらDXを推進していることが共有されました。



- 吉田様は、企業協働プログラムで正解のない課題に向き合う中で、優先度を定量化してロードマップに落とし込む実践を重ねたことで、対企業での成功体験から自信を得たと振り返りました。可視化・分析の面白さに目覚め、実践で得た具体的な経験が面接での説得力にもなり、転職にもつながったと語られました。

▼登壇者詳細は次頁へ

修了生によるパネルディスカッション 登壇者



ファシリテーター

宮野 孝汰 様

事業会社のDX推進部門にて、社内のAI・データ活用に関する業務に従事。その傍らでマナビDX Questコミュニティマスター/修了生コミュニティ運営リーダーをはじめ、複数のDX/AI人材のコミュニティの運営に携わる。その他にもDX/AIに関する講師、登壇、イベント運営などで活動中



パネラー

医療法人社団
健美会

竹下 亮 様

歯科医師・歯学博士。コロナ禍で「このままでは」とDX学習開始、AIとの協働を日々実践中。マナビDX Quest 2024、2025修了、修了生コミュニティ運営メンバー。マナビDX Questで得たコミュニティ学習・アウトプット習慣を活かし、地元でも講演・企業向けAI勉強会で講師として活動中



パネラー

トヨタ車体
株式会社

水谷 友彦 様

完成車メーカーのDX推進部門で、全社DX推進企画、デジタル人材育成、生成AI導入に従事。マナビDX Quest 2023では取組内容やプレゼンを評価され、2テーマで総合1位を獲得。現在はコミュニティマスター/修了生コミュニティ運営メンバー。学び合いを通じて身につけたAI知見を強みに、AIに関する講師やアドバイザーとしても活動中



パネラー

富士通
株式会社

吉田 裕基 様

元製造業の制御系のエンジニア、現在はIT企業のR&D部門にて「海のDX」をテーマにした研究開発に従事。前職在籍時にAIに漠然と興味を持ち、実務経験が無いながら実践的に学べるマナビDX Questに参加。社会課題をAI・データサイエンスで解く面白さを実感し、そこでの成功体験の獲得が現職への転職を後押し

協働企業と修了生による事例共有

- 上野様・松尾様より、協働プログラム中、温湿度管理が重要な現場で、異常時に状況を遠隔で把握できず見回りや夜間対応が負担になるという課題を取り上げたこと、松尾様をはじめとする修了生チームは現地で運用実態を踏まえて課題を再定義し、カメラ表示を画像解析して数値化、クラウド経由でスマホに通知する仕組みを試作したことが共有されました。
- そして、プログラム終了後も協働を継続し、現在は株式会社MUSHWORKとして法人設立へ発展したことが語られました。
- また上野様は、協働の取り組みを通じて、「技術で誰を幸せにするか」を常に問い続ける重要性を感じたと語られました。



協働企業

ウエノ設備株式会社 代表取締役

上野 敬幸 様

- (株)MUSHWORK 専務取締役
- サブコンにて空調・衛生設備の施工管理、インド駐在員として日系自動車工場のR&D・クリーンルーム構築PJなどに従事
- 地域密着のネットワークとAIを掛け合わせた新規事業の立ち上げを目指す



修了生

株式会社MUSHWORK

松尾 竜太 様

- (株)MUSHWORK 代表取締役
- エネルギー会社に建設監理・プラント現場を経験、コンサルにてDX・AI支援に従事
- 現在 AI SaaS企業に在籍しつつ、MUSHWORK代表として地方産業を支援



ネットワーキング

修了生やその所属企業の方、プログラムの運営事業者、協働企業など様々な属性の方に自由にお話しいただき、新たな交流が生まれる機会となりました。

マナビDX
クエストとは?

- 経済産業省は、地域企業・産業のDXの実現に向けて、デジタル人材の育成を推進するため、デジタル知識・能力を身につける実践的な学びの場として、デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」を実施し、累計約10,000名以上の学生・社会人などの皆様に参加いただいています。
- マナビDX Questは、企業データに基づく実践的なケーススタディ教育プログラムと、地域の中小企業との協働によるデジタル技術を活用した地域企業協働プログラムからなります。

問い合わせ

経済産業省 商務情報政策局
情報技術利用促進課
デジタル人材政策室

mail:
bzl-digital@meti.go.jp